

令和 8 年度府中市集団指導資料

2 個別サービス編 居宅介護支援・総合事業

（高齢者支援課）

【目次】

- 1 地域包括支援センターの役割
- 2 地域包括支援センターへの相談
- 3 介護予防ケアマネジメントマニュアル
- 4 総合事業の課題
- 5 府中市が目指す姿
- 6 課題に対する対策
- 7 一般介護予防事業等について

1 地域包括支援センターの役割

地域包括支援センターには、次の役割があります。

- (1) 高齢者の総合的な支援窓口
- (2) 主任ケアマネによる専門的助言
- (3) 地域資源の情報提供と連携支援
- (4) ケアマネジャーへの研修・育成支援

2 地域包括支援センターへの相談

居宅介護支援事業所の皆様から地域包括支援センターへ気軽にご相談ください。「複雑なケースへの対応力を向上させたい」「地域資源の活用方法を知りたい」「ケアプランの質を向上させたい」「ケアマネとして孤立せず、連携の中で支援をしたい」という方はぜひ、連絡をお待ちしております。個々のケース相談、事例検討や多職種での研修などを通じて、一緒により良いケアマネジメントを目指しましょう。

3 介護予防ケアマネジメントマニュアル

府中市の介護予防ケアマネジメントマニュアルを市のホームページに掲載しています。本マニュアルは、介護予防ケアマネジメントの理念及び内容について皆さまと共通理解を図り、効果的かつ適切な介護予防ケアマネジメントの実践にお役立ていただけるよう作成いたしました。ぜひご活用ください。

<https://www.city.fuchu.tokyo.jp/kenko/hoken/sogojigyo/knnewnnyouahiki.html>

※令和8年6月から介護予防ケアマネジメントに介護職員等処遇改善加算が創設されました。詳しい内容につきましては、サービス共通編（介護保険課）をご覧ください。

4 総合事業の課題

総合事業の課題として、次の3つがあげられます。

(1) 介護保険制度を取り巻く環境の変化

75歳以上人口の増加に伴い、介護ニーズの増加が見込まれます。一方で、介護人材の不足が見込まれており、地域で高齢者を支える体制づくりが求められています。

(2) お守り認定

要支援1・2認定者のうちサービス利用者は約6割にとどまっている状況があります。認定を受けているもののサービス利用に至っていない方に対し、介護予防や社会参加につながる支援の充実が必要です。

(3) 持続可能な総合事業の運営

今後も高齢化に伴う需要増加が見込まれることから、事業の効果を検証しながら、持続可能な事業運営を図ることが必要です。

5 府中市が目指す姿

【介護予防・総合事業におけるスローガン】

「長いいきき生活」

～誰もが「長生きをしたい」「いきいきと生活したい」と願うものです。健康寿命を延ばせる街にします。

【介護保険の理念 ＝「高齢者の自立支援」】

過度なサービス利用は、利用者の力や可能性を奪うことになりかねません。
高齢者の自立に向けた働きかけを行うことが大切です。

他人に介護をしてもらうことは、利用者にとって楽なことですが、その分、
今までできていたことが減ってしまう可能性もあります。「できることを増やす」ことのみならず、「今までできている能力を落とさない」ことも重要と考えます。

6 課題に対する対策

対策1 窓口対応の統一

「支援が必要な方をすばやくつなげる体制」を作ります。

フレイルのリスクがある方は、認定調査を受けなくても、基本チェックリストで対象になれば、総合事業のサービスを利用して、すみやかに元の暮らしに戻れる支援につながります。

令和8年度版 府中市 介護保険・高齢者福祉サービスガイドブック「ふくしのしおり」に詳細が掲載されています。

対策2 短期集中予防サービス事業(サービス活動C)の実施

(1) 目的

要支援者等のセルフケアの習慣化や社会参加の促進を図ることで自立を支援します。

(2) 事業概要

ア 実施時期 通年実施

イ 対象者 要支援1・2、事業対象者

ア 介護保険サービスを利用していない新規認定者

イ 介護保険サービスを利用している要支援者

ウ 相談業務等から把握し基本チェックリストで事業対象者となった方

サービス内容 主にリハビリ専門職のコーチングに特化したサービス

ア 送迎車利用は一部自己負担あり。食事・入浴なし。

イ リハビリ専門職と地域包括支援センター（プラン担当職員）の同行訪問アセスメント（家庭訪問）

ウ サービス利用後に地域ケア会議

対策3 自立支援ケア会議

(1) 目的

ア 事例を通じて自立支援型ケアマネジメントの理解を深める。

イ 多職種の見点による要介護状態の重度化防止、専門性の向上と他の職種への技術移転。

ウ よくある事例から、受け持ちの事例の共通項を見つけ役立てる。

(2) 出席者

地域包括支援センター（プラン担当職員）、通所事業所、同行訪問リハ職、生活支援コーディネーター、医師会、歯科医師会、薬剤師会、病院SMW等

(3) 開催方法 会場、WEB

(4) 開催時期 奇数月第4金曜日

(5) 運営方法

地域包括支援センターから、介護予防ケアマネジメントの事例を提出し、多職種で実現可能ないきいきとした生活に向けて、①なぜ今の状態になったのか？②どんな暮らしを目指すのか？③解決すべきことは何か？を考え、事例から学ぶ機会。事例を積み重ねることで、府中市が目指す「長いいきいき生活」支援の共通認識を図る。

対策4 生活支援体制整備事業の充実

高齢者に関する日常生活上の支援体制の充実及び高齢者の社会参加を推進するために、生活支援コーディネーターを各地域包括支援センターに1名ずつ追加で配置しました。

生活支援コーディネーターは、総合事業に位置付けられた専門職です。高齢者が住み慣れた地域で暮らしていけるよう、住民同士の支えあいの取組や生きがいづくり、自分らしく活躍できるための場づくりを進めていく役割です。

要支援1, 2の方は「可逆性」があり、健康な状態に戻る力のある方々です。介護保険サービスでの目標が達成されたら、次に地域でのつながりやご本人が自分らしく活躍できる場へ導くお手伝いをしています。

7 一般介護予防事業等について

介護保険サービスだけでなく、地域活動につながる一般介護予防事業も活用しながら、自分らしい生活を送れる支援をお願いします。

《地域の介護予防事業》 ※詳細は地域包括支援センターへ



市HP 包括事業

■地域交流ひろば

ふちゅう元気アップ体操と同じ会場において、ふちゅう元気アップ体操で学んだ体操を音源に合わせて参加者同士で気軽に行う体操。(無料)

■フレイル予防講習会

フレイルを予防するために必要な運動と社会参加の方法、栄養・口腔機能について学ぶことが出来る講習会。(無料・全4回)

■介護予防講座

文化センター等において、介護予防のための体操や、介護予防に関する知識を学ぶための講座。（無料。ただし、実費徴収の場合あり）

《介護予防推進センターの介護予防事業》

市HP センター事業 ▶



■介護予防教室

マシンを使用した教室や、フロアを利用したフレイル予防のための教室などがあります。

■毎日体操

ふちゅう体操等の映像に合わせて自身で体操を行う（無料）

■施設利用（有料）

マシンを使用した教室を修了した方を対象に、ご自身でマシントレーニングを行うマシン継続トレーニングが利用できます。

このほか介護予防推進センターでは多種多様な介護予防事業を行っています。